

競走馬 心に「風」を

ゼンノカシュウと
芦内裕実理事長＝
大阪府枚方市の
「枚方セラピー牧場」で、荒元忠彦
撮影

不登校や引きこもりの子どもたちを癒やす全国初のホースセラピー専用牧場「枚方セラピー牧場」が26日、大阪府枚方市の市街地にオープンする。阪神競馬場を走った元競走馬で、映画にも出演したサラブレッドもセラピー馬として新生活をスタートさせた。その穏やかな優しい目が、心に傷を負った人たちの触れ合いを待っている。(三島庸孝)

「枚方セラピー牧場」

NPO法人「ホース・フレンズ」(芦内裕実理事長、本部・大阪市)が運営する牧場内には、運動馬場や厩舎、花壇もある。いつでも誰でも気軽に馬と出合えるよう、京阪枚方市駅から徒歩5分程度の市有地約6600平方メートルを借りて造られた。エサやりやブラッシング、乗馬などが体験できるほか、心理学などを組み合わせたセラピスト

あすオープン

育成講座も開く。

競走馬だった「ゼンノカシュウ」は00年5月に北海道浦河町の牧場で生まれた7歳馬。地図会社・ゼンリン元社長の故・大迫忍さんのもと、03年3月に阪神競馬場でデビューしたが、4戦未勝利で



地方の笠松競馬に移り、2季で14戦4勝した。

転機は04年秋だった。ホースセラピーを題材にした映画を構想し、出演馬を探していたホース・フレンズ西日本支局(熊本県阿蘇市)の梅木康裕支局長(57)が、セラ

ピー馬に転向できる健康な競走馬の提供を依頼。

引退後は処分される競走馬が少なくない中、子どもの役に立って天寿を全うできるようにと、大迫さんがゼンノカシュウの引退を決め、託した。速く走る訓練を重ねて

きた競走馬から、人に寄り添うセラピー馬へ。ゼンノカシュウは阿蘇の広々とした大地で暮らし、しからず褒める調教を受けて目つきが柔らかくなった。人の思いに添えて歩き、走り、止まる馬に変わっていき、05年5月から映画撮影に入った。06年公開の映画「風のダドゥ」(中田新一監督)では、不登校で自殺を図った少女が阿蘇の牧場で生活し、人と馬とのふれあいを通して生きる力を取り戻していく。ゼンノカシュウは、ヒロインの相手役を堂々演じきり、今も自主上映が続いている。

調教を担当してきた梅木さんは「子どもたちの心を癒やして、生きる力のきっかけを与えてあげてほしい」と期待を寄せ

る。同牧場は6、7月の毎週土曜の午前に無料見学会を開く。問い合わせはフリーダイヤル0120・372・403へ。